二、二セメ、短徑七、六セメ、あり。然れども卵の大さ並に鈍端に於ける班點等には差異多し。

卵は凡そ三十日許にして孵化す。雛は極めて形醜く、遠方より望む時は黑き德利の立つに似たりと、或人の形容又以て其形狀を想像するに足る。雛は全身艶なき黑色の長き毛羽を以て被はれ、巢の傍に止まる。親鳥の海上より歸り來るを待ち嘴を以て親の嘴を啄き、以て食を求む。親鳥は胃中より半消化せる、食物と黃褐色の液とを吐き出し口を開けば、雛は直ちに其嘴を以て之を餌むと云ふ。或一說に親鳥は、食物を直ちに嘴より雛の口中に入れ與ふると云へり。之れ嘴の構造より考ふればかくする方尤らしきも、予が實驗せざる處なれは何れか是なるを知らず。暫く記して後の觀察を待つのみ。

雛はかくして養はれ、四月頃迄は親に伴ふ。四月末より五月の間に親鳥は先つ此島を去り、次て雛は相群集して低き海岸より波上に游き出て、兩三日は恰も飛行遊泳の練習をなすもの、如し。遂には雛も又島を去るに至る。但し此時には雛の毛羽は全く脫し、新なる黑色の羽翼完備するなり。予等が着島せし時は期已に遲くして信天翁群集の偉觀を見る能はざりしも、尙立ち遲れの鳥十羽二十羽位、此處彼處に群集して殘留せるを認めたり。

鳥の去來は、必す多少風ある時に於てす。島內赤河原馬追原及び東宿（アカリヤトリ）等の海に面せる廣場に來着し隊伍を作くり、山と山との間の低處より島の內部に入込み、各自產卵の場所を撰定す。鳥の好て營巢するは「ピロウ」「ガジュマル」等の林中又は蘆藪等にして、累々たる圓錐形の古巢尙存し苦むして、恰も「コバ」の切株に似たり。鳥の通路は略一定し、且つ群集して步むを以て、恰も市街の道路の如く、草を生せず。故に其通行の跡を尋ぬるを容易なり。鳥は北風の時には多く赤河原に下りて、信天山の東麓より溝河原に集り更に林中又は藪中に進む。東宿の方面に到着せる者は或は、直に永康山に入るもあれとも、多くは其通路により「ナベクボ」に集り、千歲山及び其附近の樹林中に入る。島內より出つる時は、大むね元の途をたどりて、海岸の廣野に出て、風に向て飛揚し去る、其飛ぶに當りては、必ず丘上又は艇等の一段高き處より。故に鳥を捕ふるに當り、之を上より下へ逐へば忽ち飛立つも、低きより高きに追ふ時は、唯翼を延はして走るのみ、是れ翼の脚に比して長大にすくるが爲めなる可し。

信天翁の食物は、主として魚類及び頭足類等なるが如し。予が鳥の胃を剖檢して、中に魚骨「イカ」の「トンビカラス」と石炭滓の少量を得たり。此鳥は甚だ暴食をなす者にして、腐敗せる魚等をも餌むを稀ならずと云ふ。又在島者の言によれば、島上に多き「ヨシ」及び「ニガナ」等を「アホウドリ」は食する由なれとも此等の植物は鳥の主要なる食料にはあらざるべし。

鳥の鳴聲は一種の奇音にして、恰も犢牛の吼ゆるに似たり。八若し追窮すれば、蹣跚として長翼を延べ走ると雖も、遂に逃るゝ能はざるに至り、長き鋭嘴を鳴らし反抗す。其極胸を曲け頸を縮め口中より黃褐色の液汁を吐出す。此液は雛を養ふ者に同しく、一種名狀す可からざる腥臭あり。八若し一たび之を嗅けば忽ち嘔吐を催すに至る。鳥が窮迫に遭ひ臭液を吐くは、自家防衛の